

2022年11月 2日

苫小牧市長
岩倉 博文 殿

日米共同統合演習の実施に当たり市民の安全と生活を守るための要請書

米軍戦闘機の訓練移転反対苫小牧実行委員会

委員長 横山 傑

(公印省略)

貴職が日頃苫小牧市民の安全と福祉の増進、地域経済の発展をめざして取り組んでいることに敬意を表します。

さて、さる10月21日、統合幕僚監部は自衛隊と米軍(一部の訓練に豪・加・英軍)が行う令和4年度日米共同統合演習「keen Sword 23」の概要を発表しました。それによれば訓練は日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等を主要実施場所とし、今年11月10日から11月19日にかけて、国内での米軍との共同訓練としては最大規模となる計約3万6千人が参加し、北海道では千歳基地に米空軍及び陸上自衛隊が展開し、CV22 オスプレイが離発着等を実施することが予定されています。

私たちは危惧するのは、この訓練に米空軍所属のCV22 オスプレイ(4機程度)が参加し、苫小牧上空を飛行する可能性があることです。

米空軍特殊作戦軍はエンジンとローターを接続するクラッチの不具合を理由に、今年8月16日～9月2日まで、空軍保有のCV22(53機全機)を飛行停止にしていました。安全性が確認されたとして飛行が再開された後も、10月22日の防衛省北関東防衛局から横田基地周辺自治体への情報提供によると、在日米軍横田基地配備のCV22 オスプレイが10月20日に和歌山県白浜町の南紀白浜空港に緊急着陸していたことが明らかになっています。2018年4月の横田基地への初飛来以降、日本国内でCV22が民間空港などへの緊急着陸を行ったのは5回目です。それにもかかわらず、日本国民が納得できる形での事故原因の究明も事故防止対策の説明も全くなされていません。このように危険なオスプレイによる苫小牧市上空の飛行は認められるものではありません。加えて、事前に飛行日時や飛行ルートの説明が苫小牧市にもない中で、多くの市民が生活する都市の上空を我が物顔に米軍のオスプレイが飛行することは、絶対に許されることはありません。

そこで、苫小牧市民の安全の確保に日夜心を砕かれている貴職に対して、下記の項目につき要請いたしますので、真摯にご検討の上、訓練開始までにご回答を下さるようお願いいたします。

記

1. 米軍所属のオスプレイに対しどのような安全対策が行われたのか、事故が繰り返されることはないことを確認できるのか、防衛施設局に対しあらためて説明を求めること。
2. 「keen Sword 23」の実施に当たり、米軍所属のオスプレイおよびその他米軍機の苫小牧上空の飛行予定を明らかにさせることを防衛施設局に求め、市街地上空の飛行及び低空飛行と深夜・早朝の飛行を行わせないように申し入れ、その内容をすみやかに苫小牧市民に公表すること。
3. 飛行予定がないもしくは明らかにされない中で、オスプレイの飛行が市民などにより目撃された場合は、市としてその事実の把握・確認に努め、明確になり次第すみやかに市民に公表するとともに、米軍および関係機関に対し強く抗議を行うこと。
4. 米軍との訓練に関連し事故等が発生した場合、直ちに市民に公表し、対策・対応を速やかに行うこと。

以上

連絡先；〒053-0011 苫小牧市末広町1-13-13
苫小牧地区労連事務所気付 T. 33-3285